

土木工学・建築学委員会 IRDR分科会（第25期・第2回）

議事録

1. 日 時 令和3年3月30日(火)10:00-12:00

2. 会 場 オンライン会議(zoom)

3. 議 題

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 特任連携会員の追加について
- (3) 小委員会の設置について
- (4) 国内外連携活動の報告
- (5) 25期活動計画について
- (6) その他

4. 配布資料

- 02-00 01 開催通知(IRDR 2)
- 02-01 IRDR_第1回_議事録
- 02-02 29-2 【参考用名簿】IRDR 分科会
- 02-03 29-2-1 【参考用名簿】IRDR 活動推進小委員会
- 02-04-01 防災減災連携研究ハブ参加機関責任者会議（第3回）議事メモ案(0313版)
- 02-04-02-a 震災復興に関する日本の知見共有オンライン・セミナー
- 02-04-02-b 第1回クロアチア地震工学会議
- 02-04-03 Infrastructure_System_Overseas_Strategy
- 02-04-04-a TeLL-Net&others
- 02-04-04-b TeLL-Net_Fujipress_JDR-16-2
- 02-04-05-a GADRI 報告多々納
- 02-04-05-b GADRI_5GS2021_theme&structure_draft_GADRI_March2021
- 02-04-06 Integrated_Research_on_Disaster_Risk
- 02-04-07 20210330 防災科研 GCTF 連携協力
- 02-05-01-a [Draft]Agenda_Of_IRDR_SC25_March2021-final draft
- 02-05-01-b Template for feedback of Compilation
- 02-05-01-c THE_DRAFT_AGENDA_ZOD_v4_under_revision
- 02-05-01-d 2021 conference - for SC25-1
- 02-05-01-e 2021 IRDR International Conference（6月8日－10日）の概要

02-06 【参考用名簿】土木工学・建築学委員会__追加申請用名簿.pdf

※資料は下記よりダウンロード可能

<https://eoc.cc.niigata-u.ac.jp/filesshare/?key=17863bb9712142>

5. 出席者 小池俊雄、佐竹健治、今村文彦、大原美保、風間基樹、川崎昭如、小森大輔、齊藤大樹、寶馨、多々納裕一、田村圭子、塚原健一、西嶋一欽、林春男、堀宗朗、宮野道雄、小野裕一、西川智
(名簿順、敬称略)

7. 議 事

アクション・アイテム

-
- (1) 前回議事録の確認 (資料 02-01 IRDR_第1回_議事録)
- (2) 特任連携会員の追加について
分科会委員の自己紹介 (資料 02-02 29-2 【参考用名簿】 IRDR 分科会)
- (3) 小委員会の設置について
小委員会委員の自己紹介 (資料 02-03 29-2-1 【参考用名簿】 IRDR 活動推進小委員会)
- (4) 国内外連携活動の報告
- 1) 防災減災連携研究ハブ (資料 02-04-01 防災減災連携研究ハブ参加機関責任者会議 (第3回) 議事メモ案(0313版))
 - 2) クロアチアでのイベント (資料 02-04-02-a 震災復興に関する日本の知見共有オンライン・セミナーおよび 02-04-02-b 第1回クロアチア地震工学会議)
 - 3) 国土交通省インフラシステム海外展開戦略2025 (資料 02-04-03 Infrastructure_System_Overseas_Strategy)
 - ・ 2025年に目標が設定されているが、特に国際枠組を強く意識したわけではなく、SDGsや仙台防災枠組を含めた2030年後の展開は考慮されていないと思われる。
 - 4) GADRI (資料 2021年3月30日 GADRI 報告多々納.docx および GADRI_5GS2021_theme&structure_draft_GADRI_March2021)
 - ・ 5th Global Summit of GADRIを8月31日～9月2日に開催。

- 5) 世界災害語り継ぎネットワーク (資料 02-04-04-a TeLL-Net&others および 02-04-04-b TeLL-Net_Fujipress_JDR-16-2)
- 6) 書籍 『Integrated Research on Disaster Risk』 (資料 02-04-06 Integrated_Research_on_Disaster_Risk)
 - ・ IRDR には 40 カ国を超える 167 名の Young Scientist が所属。その中から 20 名が各章を執筆。レビューをして今年 2 月に出版。
 - うち日本国籍は 5 名。日本にいる留学生を含めると 17-18 名。日本人をもっと増やしたい。
 - 語り継ぎを扱っている論文として、インドネシアについての 2 つの章がある。津波に関する伝統的な知恵に関して語り継ぎとしてまとめられていないので、JDR 論文を参考に今後検討したい。
- 7) 台湾 行政法人国家災害防救科技センター(NCDR)との連携による国際的な人材育成 (資料 02-04-07 20210330 防災科研 GCTF 連携協力)
 - ・ NCDR と京大防災研は長年の付き合いがある。GADRI の主要なメンバーでもあり、京大からもサポートできる。

(5) 25 期活動計画について

- 1) IRDR (資料 02-05-01-a [Draft]Agenda_Of_IRDR_SC25_March2021-final draft および 02-05-01-b Template for feedback of Compilation、02-05-01-c THE_DRAFT_AGENDA_ZOD_v4 _under_revision、02-05-01-d 2021 conference - for SC25-1、02-05-01-e 2021 IRDR International Conference (6 月 8 日－10 日) の概要)
 - ・ 3 月 30 日に第 25 回目の Scientific Committee が開催される。
 - ・ 6 月 8～10 日に IRDR International Conference を開催予定
 - ・ IRDR の報告書にあたる IRDR Compilation における日本の National Committee の存在感は低い。次の研究提言 Research Agenda Document に対してこれまでの学会での議論の成果を打ち込むために、IRDR カンファレンスで成果紹介ができるように、本分科会の協力を得ながらプリセッションを開催したい。
 - ・ Regional は、東アジアなどの大きな地域を指す。JST のプロジェクトとして京都大学が主幹校となり、「日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点－持続可能開発研究の推進」(JASTIP)を 5 年やって、さらに 5 年間の第二期に入っている。環境・エネルギー、生物資源・生物多様性及び防災の 3 分野がある。防災では、ASEAN 諸国と、Transboundary (越境災害) を主テーマに国際河川やヘイズ(煙害)、津波などを扱っており、そちらからの貢献もできる。
 - ・ 提言を英語で公表済みであり、公表の時期と枠組みを考えると最適である。

知の統合を実現するための OSS とファシリテーターというコンセプトと枠組みができているので、国際的に広げるのが重要。

- ・ DRR と Sustainability を、どのように調和を取って進めるかが大きなテーマ。
- ・ 水防災関係では、流域治水についての国土交通省社会資本整備審議会の答申が公表され、法改正等が進んでいる。全てのステークホルダーが協力するという意味で、英語では **River Basin Disaster Resilience and Sustainability by All**。現在、地球観測に関する政府間会合(GEO)などと絡めて、フィリピンやスリランカ、ミャンマー、インドネシアなどアジア各国で展開しつつある。
 - その成果として、各国幹部が OSS やファシリテーターについて語るようになってきている。そのような活動を盛り上げていくことが大事。
- ・ IRDR ICOE の枠組みをどうするか。日本学術会議は実行組織ではないので、防災減災連携研究ハブを活用するのも一案。
 - IRDR の国内委員会が活発なのは日本くらいであり、日本がやらないという選択肢はない。主張すべきことは主張して存在感を示すべく、学術会議として進めるべき。
- ・ DRR に関する科学・技術を政策や人々の生活にどのように反映するか、それを橋渡しするファシリテーターの役割を議論するのは良い。大学がちゃんとしていても政府の中に受け手がない国も多い。
- ・ IRDR にインパクトを与えるためには、IRDR のキーパーソンにも議論に入っただけ、日本の IRDR の活動を知ってもらう必要がある。
 - ラジブ先生や Riyanti Djalante 氏（元・国連大学サステイナビリティ高等研究所、現 Assistant Director for Disaster Management and Humanitarian Assistance at the ASEAN Secretariat）にご参加いただきたい。
- ・ 防災減災連携研究ハブが ICOE として登録できるのであれば、できるだけ早く IRDR に申請して、今の SC に承認してもらう方が良い。次のフェーズで、新しい SC が出来るまでに少し時間がかかる見込み。
- ・ IRDR からのお題である「変わりつつある Risk landscape をどのように捉えるか」を考えながら、Global research agenda を充実させるためのインプットを集める。環境と DRR、SDGs を三位一体で考える必要がある。Natural disaster だけではなく、相互にいろいろなものが関連するという意味で Systemic risk。
- ・ Injustice や Inequality とつなげることで、SDGs と災害リスクの関連を考える。リスクの負の部分に加えて、Sustainability とつなげることで社会を変えていくことまでを含めて、Risk landscape に入れると良い。
- ・ 提言を実現するためには、DRR と環境の両方が分かる人が必要であるが、簡単には出来ないので OSS を使ってそのような人を支援する。問題は現場にあるので、技術やイノベーションを現場に落としていくためのファシリテータ

ーが必要。それをどこまで強調して書くか。

- ・ 本分科会の後に、タスクフォースで議論する機会を作って、プリセッションの原案を考えていきたい。

2) 関東大震災 100 年を迎えるに当たって

- ・ 日本学術会議が定常的に開催する国際会議は、「アジア学術会議」と「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議（以下、持続会議）」である。2017 年、持続会議の枠組みを使って、「災害レジリエンス構築のための科学・技術国際フォーラム」を日本学術会議会議場で開催させていただいた。2021 年の持続会議についての議論が始まり、2021 年のテーマは英国ロイヤル・ソサエティーと連携して「ゼロ・エミッション」に決定。
- ・ 25 期が担当する持続会議は 3 回ある。特に期の変わり目は混乱するため早めの準備が必要ということで、2022/2023 年に関する議論も開始した。
 - 本分科会で早い段階から案を作り、国際委員会とキャッチボールを始めると、円滑に準備が進む。
 - 25 期の本分科会が何を指すのかについての議論も必要。その目標が期の最後に開催されるイベントと合致すると良い。
 - タスクフォースで議論をまとめる。

3) ぼうさいこくたいの準備状況

11 月 6-7 日に岩手県釜石市で開催。5 月位から参加に関する募集案内を開始。

(6) その他

- ・ 今期も日本学術会議の予算が不足しており、分科会を開ける回数が極めて限定的。現状では執行部から皆様へ委員手当なしでの分科会参加をお願いせざるを得ない状況。
 - 別途、機動的・定常的に議論するためのタスクフォースを設置して、週末を避けて会合を開催したい。第一回は、プリセッションの構成に注力して、その後、関東大震災 100 周年イベントについて議論する。タスクフォース参加希望の方は連絡がほしい【→4/9、田村幹事から依頼メール発出済み】。
- ・ 次回の IRDR 分科会および小委員会を 7~8 月に開催したい【→4/12、川崎から日程調整メール発出済み】。
 - 委員手当をご辞退いただくと分科会を開催しやすい。
- ・ 本分科会を代表して、林委員長が土木工学・建築学委員会に参画することになった（資料 02-06 【参考用名簿】土木工学・建築学委員会__追加申請用名簿）